

タイトル	一人ひとりが環境に配慮して暮らすまち エコタウンえどがわ 実現事業	
提案団体	江戸川区	人口：671,937人（平成20年5月1日現在）
担当者名及び連絡先	担当者の所属 環境部環境推進課調査係 氏名 金坂富美男 Tel 03-5662-6745 fax 03-5678-6741 e-mail fumio-kanesaka@city.edogawa.tokyo.jp	

1 全体構想

1-1 環境モデル都市としての位置づけ

# 一人ひとりが環境に配慮して暮らすまち エコタウンえどがわ

## 海面上昇の危機と区民運動

江戸川区は、江戸川、荒川の2大河川をはじめとする多くの河川と東京湾に面した水辺の都市という地形を活かし、親水公園や親水緑道のネットワークを図るとともに、公園を積極的に整備し、豊かな水と緑の環境を整えてきた。

この結果、水辺が風の道となり、ヒートアイランドの影響を軽減している。

しかし、関東平野の最下部に位置し、三角州からなる低地帯という地理的条件は、洪水や高潮の危険地域でもある。

地球温暖化による海面上昇の影響を真っ先に受ける地域であり、将来の世代に恵み豊かな環境を引き継ぐため、地球温暖化を自らの地域に迫りくる危機的現象ととらえ、先進的な温暖化防止の区民運動を全国に発信していく。



エコタウンえどがわ推進計画より

① 江戸川区って、どんなまち？

江戸川区の特長である  
地域力・豊かな水と緑・活力のあるまち  
を取り組みに活かします。

## 環境に対する区民の熱き思い

江戸川区のまちづくりは、環境への挑戦の歴史でもある。

昭和45年、「自らのまちは自らの手で守り育てる」を合言葉に、地域をあげて「環境をよくする運動」を開始し、現在、38年の歴史を刻む。

発足当初のまちの美化運動や緑化運動から、都市の発展に合わせて、違法駐車・迷惑駐車・タバコのポイ捨て防止などのモラルの向上、さらに犯罪防止や地球温暖化問題など、時々々の環境問題に区民自らが果敢に挑戦し、解決を図っている。

これらの活動の積み重ねが区民の環境に対する熱意を高め、地球温暖化対策の活動にも通じていく。

## 区民・事業者・区が手を携え、環境問題に取り組むNPO法人を設立



平成16年、環境分野の専門家を理事長として、区民・事業者・区が対等の立場で、地球規模の環境問題に取り組むため、「NPO法人えどがわエコセンター」を設立した。

誰もが加害者であり、被害者であるという今日の環境問題には、区民が問題の本質を理解し、自ら解決のために行動するという、区民参加による活動が欠かせない。

現在、この法人を核として、各分野の人々が連携して知恵と力を出し合い、先駆的な環境活動を推進している。

平成18年には、家庭・地域・学校・事業者がそれぞれの特徴を生かして省エネに取り組む「もったいない運動」と江戸川区版ISO「エコカンパニーえどがわ」を始め、年度末にその成果を発表・表彰する「もったいない運動えどがわ区民大会」を開催している。

また、会員同士が連携したBDF事業の「えどがわ油田開発プロジェクト」では、商店や学校から廃食油を回収し、その生成燃料を区の公園シャトルバスにも活用している。

## エネルギービジョンを掲げ、地域レベルの地球温暖化対策を推進

これまでの活動を基盤に、江戸川区では、平成20年2月、「エコタウンえどがわ推進計画(江戸川区地域エネルギービジョン)」を策定した。

この計画は、江戸川区の地域としての温室効果ガスの削減目標を掲げ、この達成に向けて具体的な取り組みを進めるためのものである。

この計画を柱に、地域レベルの地球温暖化対策の課題である家庭部門・業務部門を中心とする先進的な取り組みを展開していく。

また、削減のために、緑化運動や環境にやさしいまちづくりを積極的に進めていく。

## 区民一人あたり10本の樹木を目標に、緑化を推進

環境をよくする運動の柱として、昭和45年の発足当初から、「ゆたかな心 地にみどり」を合言葉に、積極的な緑化運動を推進してきた。

その結果、樹木数は、40年前の119万本から、現在558万本となり、大幅な人口増加にもかかわらず、一人あたり2.6本から8.4本へと増えている。公園数も130か所から432か所となった。これまでの区民と区が力を合わせた取り組みにより、平成19年、全国花のまちづくり大賞を受賞した。

また、かつて塩の道であった新川沿岸の千本桜の整備は、区民の浄財を集めて植栽する計画が着実に進んでいる。

これからも、二酸化炭素を吸収する貴重な緑を、一人あたり10本を目標に、積極的に増やしていく。

## 自転車優先のまちづくりで、江戸川区版モーダルシフトを展開

江戸川区は、東西に5本の鉄道が走り、都心へ15分という利便性の高いまちである。自転車は、区民にとって駅へのアクセスのために貴重な手段である。こうした点に注目し、環境にやさしい交通手段として、自転車環境の整備を積極的に推進する。

現在、区内の12駅に5万台の自転車駐輪場を整備しているが、これを5万5千台へと拡大していく。さらに、自転車専用通行帯を整備し、自転車を利用しやすい環境づくりを進めていく。

## 生活の知恵を伝承する環境教育を展開

環境学習のようす

江戸川区は、水と緑の環境と利便性があいまって、人口が増えており、特に若い層の転入が目立つ。

平均年齢は23区で一番若く、まちには子どもたちの元気な声があふれている。

次代を担う子どもたちが環境について考え、行動するため、小中学校全校で、節電やごみ減量などの具体的な活動目標を掲げて挑戦する「エコチャレンジ」を実施する。

また、放課後のすくすくスクールでは、地域住民の参加と協力により、子どもたちの健全育成を図るとともに、環境をテーマとした、生活の知恵を伝える環境教育も進めていく。

また、区内6地区の「環境をよくする協議会（昭和45年設立）」が、毎年、環境をテーマとする絵画コンクールを開催し、1万人以上の子どもたちが応募している。今後も、さらに多くの区民に子どもたちの思いを伝えられるよう、工夫していく。



## 江戸川区から発信する地球温暖化対策（低炭素社会）

こうした運動のため、区長を本部長とする「エコタウンえどがわ推進本部」を設け、区民・事業者・環境団体・区が知恵と力を合わせて「もったいない運動」を中心に地球温暖化対策を進めていく。

同時に、積極的な緑化運動や自転車の利用環境整備など環境にやさしいまちづくりを進め、また、太陽光・風力など新エネルギーや自然エネルギーの活用に関心をいれていく。

こうした総合的なアプローチにより、都会の中での地球温暖化対策のモデルとして、「一人ひとりが環境に配慮して暮らすまち エコタウンえどがわ」の実現を目指していく。

### 1-2 現状分析

1-2-① 江戸川区の温室効果ガス排出量は、2004年度現在246万9千トンで、基準年の1990年度から2004年度までに7.9%増加している。

このうち、エネルギー起源二酸化炭素排出量は2004年度現在241万7千トンで、7.6%増加している。部門別では、民生家庭部門と民生業務部門は増加しており、この二つの部門で江戸川区の排出量の52.6%と半分以上を占めている。

このため、民生家庭部門と民生業務部門の二酸化炭素排出量の削減が必要である。

区では、地球温暖化対策の取り組みとして、区民・事業者・環境団体・区が一体となって「もったいない運動」を進めており、これを全区展開してゆくことで区民のライフスタイルの変化を促し、「一人ひとりが環境に配慮して暮らすまち エコタウンえどがわ」を実現する。

1-2-②	計画の名称及び策定時期	評価
関係する既存の行政計画の評価	えどがわ新世紀デザイン（江戸川区長期計画）（平成14年7月）	20年後の都市の姿として、共育・協働を基本理念に、だれもが安心して生活することができる「生きる喜びを実感できる都市」を目指し、「区民参加による環境づくり」を大きな柱としている。
	エコタウンえどがわ推進計画（江戸川区地域エネルギービジョン）（平成20年2月）	地球温暖化対策のため、二酸化炭素の削減目標を設定し、目標達成に向けて、区民・事業者・区がそれぞれ実践する取り組みをまとめた計画。計画期間は10年で、京都議定書の約束期間に合わせ、5年後に見直しを行う。

1-3 削減目標等

1-3-1  
①  
削減目標

◎第一次目標

2008（平成20）～2012（平成24）年度までの5年間で、エネルギー起源二酸化炭素を、平均して年間16万トン（2004年度比6%）削減する。

第一次目標では2012年度までに京都議定書以上の二酸化炭素の削減を目指す。

京都議定書では、全体で6%の削減を目標としている。その目標達成計画では区民や事業者が削減できるエネルギー起源二酸化炭素について、1990年度比で0.8%増加としている。

江戸川区の2004年度のエネルギー起源二酸化炭素排出量は241万7千トンである。そこで、この目標設定の考え方を踏まえて、エネルギー起源二酸化炭素排出量を2008～2012年度の5年平均で1990年度比0.8%増加分に相当する、226万3千トンまで削減することを目標とする。これは、2004年度比で6%の削減となる。

◎第二次目標

2017（平成29）年度にエネルギー起源二酸化炭素を年間34万トン（2004年度比14%）削減する。

第二次目標は2050年度までに現状比50%削減に到達できる、2017年度時点の削減量とする。

IPCCの報告書を踏まえて、2007年6月にハイリゲンダム・サミットで発表された「美しい星50（Cool Earth 50）」では、全世界共通の目標として、2050年までに温室効果ガス排出量を現状比で半減することが提案されている。

長期的な目標として2050年度に温室効果ガス排出量を少なくとも半減するために、達成しておくことが必要な削減量として2017年度に2004年度比で14%削減を目標とする。

1-3-2  
②  
削減目標の達成についての考え方

「一人ひとりが環境に配慮して暮らすまち」を目指して、区民・事業者・環境団体・区が一体となって「もったいない運動」を全区展開し、さまざまな普及啓発活動に取り組むことによって二酸化炭素の排出を減らす。

また、区民と区の協働によりつくり上げてきた水と緑の環境を守り、育てながら、地球温暖化対策の取り組みに対応した、環境にやさしいまちづくりを進める。

今日から始める「もったいない運動」  
みんなて できることから はじめよう!!

江戸川区では、地球温暖化防止のため、もったいないの心で省エネ生活をおくる取り組みをすすめています。  
今日から、「1人1日1kg CO2削減」を目標に取り組みましょう。

省エネチェックシートの使い方【裏面をご覧ください】

取り組み例を参考に、自分ができる項目にチェックを入れましょう。

チェックを入れた項目の削減量、節約額を合計し、書き込みましょう。

みんなが見やすい場所（冷蔵庫の扉など）に貼りましょう。

目標：1人1日1kg CO2削減!!

取組み例	あなたが できること	削減量 (g/日)	年間 削減額 (円/年)
エアコン	部屋の換気の室温を2℃にする。	111	670
	冬の暖房の室温を2℃にする。	129	1,170
	フィルターを月に1回取り回す。	47	700
風呂給湯機	お湯を貯けずに入浴する。	244	5,730
	シャワーの使用時間を1分短くする。	81	2,520
	湯船を浅くし湯は室温に設定する。	81	1,320
換気扇	白熱球を省エネ電球に替える。	94	1,850
自動車	アイドリングを5分短くする。	163	1,900
自転車	自転車に乗る代わりにクルマ（オースター）を使う。	532	12,030
買い物	買い物の際は、マイバッグを持ち歩き、客室の紙袋を使う。	62	—
	コンビニからプラフタを買い替えて省エネ電力を節約する。	165	3,400
電気の使い方	電気ポットを長時間使用しない。お湯はプラグを抜く。	121	2,360
	シャワーの水温をやめる。	93	1,900
テレビ	テレビを見ないときは電源を切る。（ブラウン管テレビ1時間あたり）	36	700
	テレビ画面は明るすぎないようにする。（ブラウン管テレビ）	34	660
温水洗浄便座	使わないときは温水洗浄便座のタイマーを切る。	39	770
	便座の温度を低めに設定する。	30	580
冷蔵庫	冷蔵庫にものを詰め込みすぎないようにする。	49	960
	冷蔵庫の扉を開けておく時間を短くする。	7	130
	冷蔵庫の設定温度を適切にする。	69	1,360
	冷蔵庫はまともな温度に保つ。	7	3,950
その他	お風呂の残り湯を洗濯に使い回す。	19	4,200
	お風呂の残り湯を洗面から洗面に使う。	15	360

あなたができる  
1日の削減量は  g  
1年間の節約額は  円

省エネチェックシート

	<p>取組み方針</p> <p>区民・事業者の取組み「もったいない運動」 人々のさまざまなライフスタイルに合った、二酸化炭素削減の取組みを実践する「もったいない運動」を、あらゆる場面で展開し、二酸化炭素の排出を減らす。</p> <p>環境にやさしいまちづくり 平坦な地形を活かした自転車の利用促進や、親水公園ネットワークの風の道を活かした風力発電などの自然エネルギーの活用に取り組みることによって二酸化炭素を削減する。</p>	<p>削減の程度及びその見込みの根拠</p> <p>2004年度のエネルギー起源二酸化炭素排出量、241万7千トン を2008～2012年度の5年平均で226万3千トンに、 2017年度で207万7千トンに減らす。</p> <p>自転車利用の促進により自動車の利用を減らし二酸化炭素排出削減に寄与する。 また、街路灯の省電力化によりエネルギー使用を抑える。</p>
<p>1-3-③ フォローアップの方法</p>	<p>平成18年度地球温暖化対策23区共同事業で標準化した温室効果ガス算定手法により、江戸川区の温室効果ガス排出量を毎年算出、公表する。この数値により、区民に取組みの効果を知らせる。 エコタウンえどがわ推進本部で、この取組みの効果を確認するとともに、区民、学校、事業者等のもったいない運動の進捗状況やエコカンパニーえどがわの登録状況を把握し、拡大を図る。</p>	
<p>1-4 地域の活力の創出等</p>		
<p>江戸川区は「環境をよくする運動」を中心に、さまざまな環境問題に挑戦してきた。 そして、平成16年、「NPO法人えどがわエコセンター」を設立し、地球規模の環境問題に取り組み、その具体的な活動として「もったいない運動」や「エコカンパニーえどがわ」を推進している。 その中から、区民・事業者・環境団体の交流が生まれ、その輪がさらに広がることで、地域に新たなコミュニティが育っていく。 区では、レジ袋削減のため、商店街やスーパーマーケットに、「マイバッグ推進店」への加盟を推進している。これに加えて、商店街では、それぞれのお店で取り組む「エコチャレンジ」の項目を表示し、顧客との交流を深めている。 こうした中で、地域と連携したエコイベントを開催する商店街も生まれ、この試みを積極的に支援することで活性化につなげていく。 省エネを意識した環境経営を目標とする「エコカンパニーえどがわ」に登録し、認定された事業所を区のホームページで公表することで、企業のイメージアップに貢献する。 子どもたちは、環境教育・環境学習をとおして自然への理解を深めるとともに、生まれ育ったまちの環境を大切にす豊かな心を育てる。 こうしたさまざまな環境活動により、地域活力の創出を図っていく。</p>		

※必ず改ページ

2 取組内容（※取組内容の整理にあたっては「1-3-②削減目標の達成についての考え方」に記載された取組内容の整理の枠組みを基礎とした柱に沿って取組を分類すること。）

2-1 目標 区民・事業者・区を取り組み 「もったいない運動」

2-1-① 取組方針

①区民・事業者・区が連携して取り組んでいく。

②家庭・会社・学校などで、区民全員が、省エネや省資源に取り組む。（1人1日1kgの二酸化炭素削減）

2-1-② 区民・事業者・区を取り組み「もったいない運動」

取組の内容・場所	主体・時期	削減見込み・フォローアップの方法
(a) 家庭での取り組み 「省エネチェックシート」を全戸に配布し、1人1日1kgの二酸化炭素削減を促進する。	通年	第一目標達成 ・区民の45%が「もったいない運動」を実践 ・事業所の40%が「エコカンパニーえどがわ」に登録  第二目標達成 ・区民の90%が「もったいない運動」を実践 ・事業所の80%が「エコカンパニーえどがわ」に登録
(b) 地域の取り組みの拠点、商店街エコチャレンジ 省エネ、省資源、ごみ減量に取り組む店舗に「エコチャレンジ表示板」を掲げ、地域ぐるみの取り組みを推進する。	通年	
(c) 事業者の取り組み「エコカンパニーえどがわ」 小規模事業所を対象とした江戸川区版ISO「エコカンパニーえどがわ」によって事業者の省エネ意識を高める。	通年	
(d) えどがわ油田開発プロジェクト 小中学校や商店街、事業者や家庭から回収した廃食油をBDFに生成し、ディーゼル車からの二酸化炭素排出を抑える。	通年	
(e) 環境教育・環境学習「学校エコチャレンジ」 幼稚園、小中学校が自ら選択した取り組み内容を表示した「エコチャレンジ表示板」を掲げ、「もったいない運動」の実践をとおしてもったいないの心を教育する。	通年	
(f) すくすくスクール 地域住民の参加と協力による環境をテーマとした取り組みをとおして児童の健全育成を図る。	通年	
(g) 絵画コンクール 子どもたちから環境への意識を高めるため、環境をテーマにした小中学生の絵画コンクールを開催する。（展示・表彰）	通年	

2-1-③課題

(d) えどがわ油田開発プロジェクトについては、一般家庭からの廃食油を回収する仕組み作りに課題がある。

※必ず改ページ

2-2. 環境にやさしいまちづくり		
2-2-①. 取組方針		
①江戸川区版モーダルシフトを推進する。 ②太陽光、風力などの新エネルギー、自然エネルギーを活用する。 ③ファンドなどの新たなシステムを創設する。		
2-2-②. 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a) 自転車利用の促進 自転車及安全に走行できる自転車通行帯「ブルーレーン」などの整備を進め、自転車利用を推進する。	通年	第一次目標達成 ・車利用を10%削減。
(b) 駅前駐輪場の整備 5万5千台分の駅前駐輪場を整備し「サイクル・アンド・ライド」を推進する。	通年	第二次目標達成 ・車利用を50%削減 ・5%の家屋が省エネ化
(c) 駅前自動二輪駐輪場 1千台分の駅前自動二輪駐輪場を整備し「パーク・アンド・ライド」を推進する。	通年	・20基以上の太陽光発電設備設置
(d) シャトルバス（ガイドウェイ型）の利用拡大 区内公共交通の軸としてシャトルバスの利用を10万人に拡大する。	通年	
(e) レンタサイクルシステム 1万台の自転車をレンタサイクルとして各所に配備し、自転車利用を推進する。	2012年度	
(f) 街路灯の省エネ化 区内全域の街路灯を省エネ長寿命タイプに切り替え、電力使用量を削減する。	通年	
(g) 街路樹や公園の植樹によるカーボンオフセット 5年間で新たに5千本の植樹を行い、カーボンオフセットに寄与する。	随時	
(h) 風の道を利用した風力発電 河川や親水公園に沿った風の道に小型風力発電設備を設置し、街路灯や公衆トイレの明かりなどに活用する。	2012年度	
(i) 多摩産の間伐材を利用することによる森林保護 区施設に多摩産の間伐材を使用し、積極的な森林保護を行う。	通年	
(j) スーパー堤防化にともなう新しいまちづくり スーパー堤防の整備にあわせて、地球環境にやさしい新たなまちづくりを行う。	随時	
(k) ディスポーザー排水処理システム 生ゴミ発生量を削減し、ゴミ収集車両の走行を減らすことによって二酸化炭素排出量を削減する。	2012年度	

(l) コミュニティファンド コミュニティファンドを創設、活用することによって太陽光発電や自然エネルギーの活用を促進する。	2012 年度	
(m) 住宅リフォーム資金融資 エコ住宅への改修資金の利息補助を行い、太陽光発電や高効率給湯器など、環境にやさしい住宅の普及を促進する。	通年	
(n) インフラ整備におけるエネルギーコストの半減 公共工事をはじめとする建設資材の二次製品化を積極的に進め、生コン車両の走行を減らして化石燃料の消費を極力抑える。	2012 年度	
2-2-③課題		



自転車通行帯



必ず改ページ

3. 平成 20 年度中に行う事業の内容	
取組の内容	主体・時期
<p>◎「もったいない運動」の普及啓発</p> <p>(a) 区民を対象とした取り組み</p> <p>1 人 1 日 1 kg 二酸化炭素削減の推進 環境に配慮した地域まつりの開催 地域まつり等イベントでのエコタウンへの取り組みの普及啓発 リサイクル・ゴミ減量をテーマにした施設見学会 リサイクルリーダー講習会 省エネルギー住宅への改築等の資金融資利息補助</p> <p>(b) 事業者を対象とした取り組み</p> <p>エコカンパニーえどがわの拡大 事業者向け省エネ技術研修会 商店街が主催するエコに関するイベント開催資金補助</p> <p>(c) 環境学習・環境教育の取り組み</p> <p>グリーンプラン推進校での環境学習 エコチャレンジの推進</p>	<p>通年 随時 随時 数回 数回 随時</p> <p>通年 1 1 月 随時</p> <p>随時 通年</p>
<p>◎環境にやさしいまちづくり</p> <p>葛西駅前広場に風力発電、太陽光発電設備を設置 平井駅、一之江駅に駐輪場を整備 自転車通行帯（ブルーレーン）を整備 区庁用車にアイドリングストップ装置を装着 BDF を生成し、公園内パノラマシャトルバスで使用</p>	<p>8 月～ 8 月～ 通年 随時 通年</p>
4. 取組体制等	
行政機関内の連携体制	<p>エコタウンえどがわ推進庁内連絡会</p> <p>各部の庶務担当課長及びえどがわエコセンター事務局長など 16 名で構成。</p> <p>エコタウンえどがわ推進本部にて行われた意見交換等の情報が区のさまざまな事業に反映されるよう調整を図る。</p>
地域住民等との連携体制	<p>エコタウンえどがわ推進本部</p> <p>区長（本部長）、地域選出者、環境をよくする地区協議会会長、産業関係者、教育関係者、PTA 関係者、NPO 法人えどがわエコセンター、その他区長が必要と認める者の 25 名で構成。</p> <p>エコタウンえどがわ推進計画に示す地球温暖化対策のための取り組みについて、意見・情報交換を行い、自ら実践しながら、区民への取り組みの促進を行う。</p>
大学、地元企業等の知的資源の活用	<p>NPO 法人えどがわエコセンター</p> <p>「もったいない運動」全般にわたり、NPO 法人えどがわエコセンターと区が協働して推進する。</p>

※ 5 年以内に具体化する予定の取組については、その実施箇所を一覧できる地図を添付すること

※必要に応じて適宜、行や欄の追加、注記・例示の削除を行ってよいが、様式 1、2 の全体の枚数は 10 枚程度とすること。また、様式に入力する文字は 10.5 ポイント以上とすること。

1-1 環境モデル都市としての位置づけ

# 日本一のエコタウン

「一人ひとりが環境に配慮して暮らすまち」

1-2. 現状分析

江戸川区の温室効果ガス排出量の推移 千t-CO<sub>2</sub>

ガス種いふスタイルの	基準年	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	
二酸化炭素	CO <sub>2</sub>	2,246	2,246	2,398	2,437	2,398	2,460	2,432	2,394	2,427	2,454	2,461	2,472	2,370	2,545	2,661	2,417
メタン	CH <sub>4</sub>	3	3	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3
一酸化二窒素	N <sub>2</sub> O	27	27	28	28	28	28	28	29	29	29	29	28	27	26	23	23
ハイドロフルオロカーボン類*	HFCs	10						10	16	20	23	23	25	25	27	27	26
パーフルオロカーボン類*	PFCs	0						0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
六フッ化硫黄*	SF <sub>6</sub>	3						3	4	4	3	2	1	2	1	1	1
合計		2,289	2,276	2,430	2,469	2,429	2,491	2,477	2,446	2,485	2,513	2,519	2,530	2,427	2,602	2,715	2,469

1-3. 削減目標等

## 第1次目標

2008～2012年度までの5年間でエネルギー起源二酸化炭素を平均して年間16万トン(2004年度比6%)削減

## 第2次目標

2017年度にエネルギー起源二酸化炭素を年間34万トン(2004年度比14%)削減

1-4. 地域の活力の創出等

もったいない運動

ライフスタイルの見直し  
関心の高まり  
地域力

日本一のエコタウン

「一人ひとりが環境に配慮して暮らすまち」

環境モデル都市のイメージ

⑥一人ひとりが環境に配慮して暮らすまち

